

# ICA大会

韓国・ソウル 2016年9月5日～10日

## 「アーカイブズ、調和、友情： グローバル社会における文化的感受性、正義、連携の確保」

国際公文書館会議の4年に1度の大会が、韓国のソウルで2016年9月5日から10日まで、「アーカイブズ、調和、友情」をテーマとして開催されます。この全体テーマを踏まえ、デジタル時代におけるレコードキープिंगの本質の変化；アーカイブズ以外の領域との協働；真実や正義、和解を支援するためのアーカイブズの利用及び役割；アーカイブズの取組における調和と友情の機会などの個別テーマに関する、世界中の記録とアーカイブズの専門家の皆様からの発表の応募をお待ちしております。また会議では、ネイティブ（先住民）に関するトピック、ネイティブとネイティブに関する記録及びアーカイブズとの関係、ネイティブとノン・ネイティブのコミュニティにおけるレコードキープिंग及びアーカイブズ管理業務との関係についての発表も取り上げます。このほか、韓国における記録とアーカイブズの管理や、世界のICA会員が進めるイニシアチブや成果についての発表も行います。最後に、大会では新しく専門職になった人々が記録及びアーカイブズの課題についての意見を発表するフォーラムを開きます。本大会のゴールは、課題に取り組むだけでなく、アーカイブズの世界における調和と友情の継続的な枠組みを構築するための、機会と成果を探ることです。

### <プログラムテーマ>

#### 1. デジタル時代のレコードキープिंग

デジタル時代のレコードキープिंगは多くの課題を抱えています。デジタル記録が安全で、アクセス可能で、真正であること。また、政府、社会、企業、いずれの分野で作成され、管理され、利用されているかに関わらず、文書としての完全性を保っていること。これらを保証することは、日増しに重要性を増し、しかもより複雑化しています。デジタル時代のレコードキープिंगをテーマとする発表の例は、以下のような課題に取り組んだものです。

- ー記録の専門家が他の主要なステークホルダー（記録作成者や情報技術産業の代表等）とやりとりし協働するにはどうすればよいか。
- ーデジタルレコードキープिंगの責務に必要な主要要件に合った法規制の枠組みを築くにはどうすればよいか。
- ー記録及びアーカイブズの管理において、長期にわたり保護しアクセスを維持することのリスクと利益のバランスを、どうとるべきか。
- ーデジタル記録及びアーカイブズが、良好なガバナンスと説明責任のツールとして、また集合的なアイデンティティ及び記憶のソースとして、その価値を保ち続けるにはどうすればよいか。

ーオンラインで情報にアクセスすることへの要求が高まる一方で、サイバースペースの情報セキュリティがますます深刻な脅威にさらされている。両者のバランスをとり、問題に取り組むにはどうすればよいか。

## 2. 協力

協力と協働は記録及びアーカイブズ管理の重要な構成要素です。このテーマに関する発表としては、以下の課題の検討が挙げられます。

- ーアナログ・デジタル両方の媒体の記録化された証拠について、シームレスな、バランスのとれた管理をどのように確保するか。
- ーどのようにしてアーカイブズ機関と図書館、情報技術管理、博物館学、文化遺産管理その他の類縁機関・分野との協働を推進するか。
- ーアナログからデジタル、古代から近代まで、アーカイブズ分野における文化やアプローチ方法の違いを、どのようにして認識し、尊重するか。

上記のほか、文化関係機関内の協力と協働のこれまでと異なる新たなモデルや、レコードキーピング関係機関とその他の分野の組織との連携の例などを取り上げることも可能です。

## 3. 正義、権利擁護、和解における記録及びアーカイブズの利用

差別や人権侵害が起こった後の「真実と和解」のプロセスを支援する、数多くの国家レベルでのイニシアチブの例で明らかのように、世界的に人権侵害の問題における記録の役割についての認識が高まっています。正義の追求と和解は、信頼できる記録の存在と当該記録への開かれたアクセス、及び問題となっている事案に関する証拠と証言の作成、保存、公開のメカニズムへの信頼性に左右されます。このテーマに関する発表は、記録とアーカイブズを保護し適切なアクセスを保証することを通じて、いかにしてアーカイブズと記録の専門家が正義を擁護できるか、という問いを反映するものとなるでしょう。過去の紛争／戦争の全容の提供や、関与するグループ間の記憶の共有と和解における、記録及びアーカイブズの役割についての発表を通じて、世界各地の紛争や人権侵害に関するアーカイブズと記録についての議論を促すことが期待されます。さらに、より広範な課題として、証拠の保存及び公開や、紛争時の説明責任と調和のためのツールとしての記録化された記憶の保護について、アーカイブズ分野はどのような支援ができるかについても取り上げることになるでしょう。

## 4. グローバルなアーカイブズ界における調和と友情

今日のデジタル世界では、情報は国境を越えてシームレスに移動します。同様に、ある国で働く人々が、シームレスに別の国の記録及びアーカイブズーその記録化された資料が電子文書であるか否かに関わらずーにアクセスする必要があります。ボーダレスなアーカイブズの世界においては、ある管轄から他の管轄へと容易に移動できる形式の

情報へのニーズが高まっています。また、国際的なビジネス、国際社会における宗教的慣習の尊重、国際的な法律の適用など、多様な分野でグローバリズムが支持される一方で、個人情報や企業情報の違法な流出を防ぐという課題が重要になっています。このテーマの発表では、グローバリズムのトレンドと、記録及びアーカイブズ管理におけるボーダレス社会のインパクトを追求することになるでしょう。発表を通じて国際的な商取引の世界、国際法、ますますボーダレス化する組織ービジネスから文化、宗教、社会的なグループに至るまでーにおけるアーカイブズの未来が明らかにされるでしょう。

## 5. アーカイブズ文化及び社会における多様性と調和

世界各地で、先住民の集団及び移民のコミュニティを抱える国や地域が直面する、文化的、社会的、経済的課題に対する認識が高まっています。アーカイブズの観点から見ると、これらの課題は、例えば先住民のレコードキーピングに対する国家又は政府の記録及びアーカイブズのプロセスといった、社会文化的な相違の問題を反映しています。このテーマにおける発表では、ネイティブの人々による記録及びアーカイブズ管理における業務内容や課題について、政府や企業のアーカイブズなどのノン・ネイティブの機関と比べて相違がある場合、その相違の本質について考察することになるでしょう。また、ネイティブとノン・ネイティブを問わず、異なる管轄下に置かれた様々なアーカイブズの伝統について検討し、ネイティブ記録及びノン・ネイティブ記録と、世界中の国々のアーカイブズ・コミュニティとの間の調和を保つための提案や解決策を示すことになるでしょう。さらに、このテーマでは、ネイティブ、ノン・ネイティブ、コミュニティ、その他におけるアイデンティティの問題や、社会における様々なアイデンティティの交差から生じる緊張関係への対応において、記録とアーカイブズが果たす役割など、より広範な課題を取り上げることも可能です。

## 6. 韓国のアーカイブズ及び記録管理

伝統的に、韓国は優れた文書遺産を所蔵しています。「朝鮮王朝実録」や「朝鮮王室儀軌」、「承政院日記」などが有名です。近年は、ICT技術の進歩により、韓国政府及び民間企業は、官民あらゆる分野における電子記録及びアーカイブズ管理システムの開発と運用に努めています。2016年ICAソウル大会は、韓国固有の記録及びアーカイブズ管理における問題点、課題、成功例、成果などを紹介することにより、それらを国際的なアーカイブズ及び記録管理コミュニティと共有することを可能にする特別な機会です。このセッションでは、以下の関連するトピックスに関する提案を歓迎します。

- 韓国における伝統的な記録の保存と利用
- 伝統的な資料保存
- 文書遺産の利用方法
- ケーススタディ（例えば韓国の伝統的な記録の3Dデジタル化など）
- 電子記録及びアーカイブズ管理の新しいトレンド、韓国政府及び民間部門におけるICTの利用

- LOD (リンクされたオープンデータ)、オープンデータ、情報リスクマネジメント
- BRM (ビジネスレファレンスモデル)、オンナラシステム (ビジネスプロセスシステム)、RMS (記録管理システム)、CAMS (中央アーカイブズ管理システム)

## 7. 新任専門職

ICA は新しくアーカイブズで職を得た新任者向けに、包括的な会議テーマである、アーカイブズ、調和、友情に関する課題を追求する機会を設けます。本テーマでは、専門性の向上とアーカイブズにおける日々の業務に役立つような、問題点、課題、成功例を発表する新任専門職のためのフォーラムを提供します。

## 8. 2012年以降のICAネットワークの称賛すべき成果

この大会では、ICA 会員向けに、到達した成果や現在のイニシアチブに光を当て、2012年にオーストラリアのブリスベンで開催された前回のICA大会以来、ICAネットワークを通じて開発された製品を紹介する機会を設けます。発表ではICAのセクション、地域支部、専門家グループ、ワーキンググループ、プログラム委員会、国立公文書館長フォーラムなどが、各々の取組を紹介します。

(2015.12 国立公文書館仮訳)